

「この人 60」

森 要 80歳 神奈川県

編集部 俳句を始められたのは？

森 「ここに幸あり」の作詞家・高橋掬太郎に師事して指導を受け、師曰く「詩や句には絵が浮かぶように」と教わり、絵が好きな自分の刺激になり、俳句や川柳を始めました。五年前、朝日新聞で当協会を知り、早速、入会しました。

編集部 滑稽俳句の魅力とは？

森 心を裸にして笑い合えることです。その一例で、協会報第三六号にあるイラスト付き、池田亮二兄の作、「世界遺産ふんどし腰巻き夕涼み」。これは正に昭和、笑話で唱和になりますね。

編集部 俳句における「滑稽」とは？

森 ユーモアとは、ヒューマンとモアアの合意語で、「人間的なものに、更に何かを」ということです。それが滑稽俳句にも通じると思います。

編集部 滑稽俳句を続けていて良かったことは？

森 日本語の素晴らしさの発見と、心身の活性化になっています。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

森 脳とノート、ひらめき、ヒント、それにあらねば試行錯誤（思考索語）ですかね。

<代表句>

鬼多く福豆足りぬ憂き世かな
紐つきで浮気ができぬ恋のぼり
毎日が父の日だった頑固爺
究極は禪ひとつクールビズ
七五三五七五で四九八九